

令和5年12月 教育委員会定例会議事録

1. 日 時 令和5年12月25日（月） 午前10時00分 開会
 午前11時20分 閉会
2. 件 名 河南町教育委員会定例会
3. 開催場所 河南町役場 庁舎4階 大会議室南
4. 出席委員 教 育 長 中川 修
 教育長職務代理者 西川 幹雄
 委 員 藤原 充
 委 員 高井 美恵子
 委 員 杉田 みはる
5. 事務局職員 教・育部長 谷 道広
 教・育部副理事兼指導主事 内山 裕生
 教育課長 藤井 康裕
 こども1ばん課長 山田 恵
 生涯まなぶ課長 森 弘樹
 給食センター所長 浅井 明郎
 教育課長補佐兼指導主事 柏木 俊介

(審議内容)

教育長	<p>今年最後の12月定例会になりました。</p> <p>まず、この12月議会におきまして、再任の同意をいただき、12月20日に森田町長から2期目の教育長の任命をいただきました。</p> <p>何分、まだまだのところはございますが、皆さんのお力添えをいただきながら、頑張って参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>次に、ALTに来ていただいておりますので、ご紹介させていただきます。</p>
事務局	<p>クアデルナル・ボナライさんです。</p> <p>ALTとして町立中学校で既に勤務いただいております。</p> <p>今回は、自己紹介ということで、お越しいただきましたので、ボナライ先生、お願いします。</p>
ボナライ先生	<p>皆さん、こんにちは。</p>
一同	<p>こんにちは。</p>
ボナライ先生	<p>私は、クアデルナル・ボナライです。新しいALTです。フィリピンから来ました。</p> <p>1ヶ月ぐらい前に河南町立中学校で教え始めました。生徒たちには、私と一</p>

	<p>緒に楽しく英語を学んでくれることを願っています。外国語指導助手として教育委員会と一緒に働けることを楽しみにしております。</p> <p>ここに来たときから、今まで親切にしてくれて、本当にありがとうございます。</p> <p>よいお年をお迎えください。</p>
一同	(拍手)
教育長	<p>ボナライ先生。</p> <p>慣れないこともたくさんあると思いますが、わからないことは、みんなに聞いていただけたらと思います。</p> <p>これからもどうぞよろしくお願いします。</p>
一同	(拍手)
	(写真撮影)
事務局	<p>そうしましたら、ボラナイ先生の資料ということで、資料1を用意してございますが、また、ご覧いただくということで、先生の紹介を終了させていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>
	(ALT 退席)
教育長	<p>ALT について先にさせていただきましたが、冒頭、申し上げましたように、再任ということで、少しお時間を取らせていただきたいと思います。</p> <p>(教育長所信表明)</p> <p>令和5年12月5日の河南町議会において、教育長の任命同意をいただき、12月20日付で森田町長から2期目の教育長を任命いただきました。</p> <p>今後も、河南町の教育行政において、町長部局と連携しながら、さらに推進して参りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、5月8日からは新型コロナウイルスの感染症法上の分類を季節性インフルエンザと同じ「5類」移行を受けまして、コロナ禍以前のような活気に満ちた様々な社会活動や教育活動が各地域において行われ、子どもたちや住民の方々に笑顔と明るい表情が広がり、喜びと嬉しさを感じているところであります。コロナ禍で学んだことは今後の活動や様々な分野で活かしながら取り組んでまいりたいと考えております。</p>

また、国では、2020年代を通じて実現すべき学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」という方向性を示されました。

大阪府では、令和5年度、新たに策定された第2次大阪府教育振興基本計画において、大阪の教育がはぐくむ人間像を、

- ①人生を自ら切り拓いていく人
- ②認め合い、尊重し協働していく人
- ③世界や地域とつながり社会に貢献していく人、として示されています。

本町においては、「一人ひとりが輝き、笑顔あふれる人づくり」を基本理念とした河南町教育大綱のもと、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成を推進する」、「誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育を推進する」、「地域や家庭で共に支え合う社会の実現に向けた教育を推進する」、「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進する」とする4つの基本方針の達成を目指すため、今後、様々な施策と具体的な取組を行ってまいります。

それでは、今後の教育行政の考え方と主な施策の概要について、「第2次河南町教育大綱」に掲げる基本目標に沿って申し上げます。

まず、第1の目標、「確かな学力の定着と学びの深化」についてです。

人格形成の基礎を培う幼児教育の充実については、第2子以降保育料無償化や幼児教育・保育施設における副食費の実質無償化などの町独自の子育て施策を積極的に推進していきます。また、多様化する保護者ニーズに対応すべく、子育てについての相談や協力を求められる人が身近にいないケースが増えていることから、こうした悩みや負担を軽減する手助けとして、臨床心理士を有する心理相談員の配置、子育てセンター(おやこ園)で提供する親子同士の交流の場や子育てに関する相談支援、家庭保育が困難な場合などの子ども一時預かりサービス(ぽけっとルーム)などの取組をはじめ、子どもの体力向上への取組や保育・子育てサービスの更なる充実を進めてまいります。さらに、放課後児童クラブでは保護者等が就労などにより昼間家庭にいない小学校に就学している児童を対象に遊び場や生活の場を提供しておりますが、その延長利用時間について、現在午後6時30分までを令和6年度から保護者等の就労時間を考慮し、午後7時までといたします。

幼児教育の質の向上と、学校教育との円滑な接続については、こども園等や

小学校において育まれる資質・能力を踏まえながら、各発達段階に応じた教育活動の充実に努めていきます。そして、子どもが小学校生活に期待感を持ち、一人ひとりが生き生きと自分らしさを発揮できるようにするために、小学校体験入学や、小学生と一緒に遊ぶ等の交流を実施していきます。さらに、こ小中合同研修会や授業参観等を実施し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や小学校の教育課程等を共有するなど連携し、小学校教育との円滑な接続への取組みについて積極的に実施いたします。さらには、「環境を通して行う保育・幼児教育」の手法が小学校のみならず、中学校での教育活動にも広がる可能性があると考え、町として一貫した考え方のもと、こども園、小学校、中学校での各教育活動を展開していきたいと考えております。

個別最適な学びと協働的な学びによる学びの深化として、少人数によるきめ細かな指導体制において、各教科の基礎基本の確実な定着を推進するなかで、国語で習得する力の醸成、算数、数学、英語の習熟度別教育など丁寧な指導を強化するとともに、児童が考える力を養い、学校に行くことが楽しくなるような教育活動を実施したいと考えており、その一例として、総合的な学習の時間において、今年度に各種団体等の協力を得て、囲碁等の学習を試行的に実施したいと考えております。

グローバル社会を見据えた英語教育・ICT活用の推進として、英語教育では生きた英語に触れる機会を持てるよう、引き続き小・中学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、中学校では、英語検定受験を実施いたします。また、ICT活用の推進では、ICTを利用・活用したGIGAスクール構想において、授業や家庭学習で活用できるデジタル教材を充実し、多様な児童・生徒たちを誰一人取り残すことなく、効果的な授業づくり等に取り組むとともに、小学校におけるプログラミング教育では、体験を通じて、「プログラミング的思考」を育み、1人1台端末等を必要に応じて活用しながら問題解決しようとする態度を育成するように努めます。さらに、学習の充実に向けて、1人1台端末を利用した町独自テストの導入を研究してまいります。

社会や地域とつながる探求的な学習の実践として、豊かな自然を活かした、河南町だからこそできる取り組みも実践してまいりました。一例に、森林の大切さについて理解を深めることを目的に、かなん桜小学校を対象に森の役割や、それを生かすための林業による循環（植林⇒間伐⇒利用のサイクル）について学習しておりました。令和6年度からは大阪府森林組合の協力のもと、近つ飛

鳥小学校も含めて森林教育体験を通じて SDGs・森林・環境保全への関心を高める取り組みが実施できるように検討しております。

教員の資質能力の向上では、令和3年11月に連携協力を協定いたしました大阪教育大学と自律的な研修計画の策定の実証実験を行うことにより、今後、一人ひとりの教員がそれぞれのキャリア（経験や職責）に応じて計画的に研修等に取り組み、自らの資質・能力の向上を図るとともに、「教職員の評価・育成システム」の円滑な実施により、教職員の意欲の向上と学校の活性化に取り組みます。

次に、第2の「豊かな心と健やかな体の育成」についてです。

不登校児童・生徒への支援の推進として、本町においても国や府の動向と同様に不登校児童・生徒が増加傾向にあることから、不登校を含め、様々な課題を抱える児童・生徒に向けた教育相談窓口の周知を強化するとともに、本年度より、教育支援センターについて、従来、開設時間が9時から12時までであったものを、14時45分まで延長いたしました。そして、学校に支援員を派遣し、校内での居場所づくりを行う出張型教育支援センターを試行的に取り組んでおります。また、1人1台端末を活用し、引き続き、教室と別室や自宅をオンラインでつなぎ、授業や学級の様子を視聴できるようにして、教育の機会充実に図るよういたします。

いじめ等への対応として、「いじめは絶対に許されない」との人権感覚を日頃より醸成するとともに、「子どもの考え、意見、思いを聞く」姿勢をかかわる大人が再確認していくことが大切であると考えております。

不登校児童・生徒、いじめ問題、不適切な指導等への対応については、今年度中にスクールロイヤー、臨床心理士、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の専門家を交えた学校支援チームの試行設置を行います。

読書活動の充実として、児童・生徒が読書への興味・関心を高め、自ら読書を行うことができるよう、各小中学校に図書館司書を配置するとともに、公立図書館やボランティアとの連携を促進し、学校での読書環境づくりを進めてまいります。

学校給食・食育の充実については、児童・生徒が、発達段階に応じて食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができる食育を推進するとともに、食育の推進の一環として、地産地消の観点から町内産の食材を使った給食の提供を引き続き実施してまいります。また、五感を育むような魅力ある

献立づくりのため、児童・生徒の考えを取り入れた募集献立の実施や郷土料理や旬の食材を取り入れた行事食（お月見など）の提供などにより、引き続き、残食率の改善に取り組んでまいります。

今後も、学校給食法に定める衛生管理基準を遵守し、食の安全・安心を念頭に、学校給食を運営するとともに、学校給食費について、教員の業務負担の軽減、経理面の管理・監督体制などの充実を図るため、公会計化を検討してまいります。

この第1、第2の目標は、令和5年度学校園教育指針としてもまとめております。そして、教育に携わる関係者は、「教育は人なり」との言葉を肝に銘じながら、今後も引き続き、小・中学校では、児童・生徒に対して、確かな学力、豊かな心、健やかでたくましい体力の3つをバランスよく兼ね備えた、まさに「生きる力」を、そして保育・幼児教育では、そのもとになる力を、育成すべく、尽力してまいります。

次に、第3の「学びを支える環境整備と指導体制の強化」についてです。

施設等の整備については、施設の老朽化への対応として、令和3年2月に策定いたしました河南町学校施設等長寿命化計画に基づき、教育環境等の質的な改善を考慮しながら、補修・補強等を進めることといたします。改修については、省エネ化やバリアフリー、防災などの機能向上を行うとともに、屋上、外壁、外部開口部は断熱化を図り、建物として基本的性能を向上させます。さらに、設備は、省エネ化を図れる高効率化型の設備機器の導入を検討してまいります。

学校等における働き方改革については、部活動の地域移行として、国においては、可能な限り早期の実現を目指すものとされています。本町での部活動の地域移行を検討するにあたり、活動を担う団体等との連携、指導者の質・量の確保、活動場所の確保、会費の在り方などの様々な課題を解決しながら、学校現場の意見、各種団体、近隣市町村等の動向も注視しながら、慎重に進めてまいります。今後も中学校での部活動においては、平日及び土・日曜日は少なくともそれぞれ1日以上を活動の休業日とすることなど、合理的でかつ効果的な活動を行うこととしております。

次に、第4の「地域コミュニティの基盤を支える社会教育及び生涯学び、活躍できる環境整備の推進」についてです。

文化・芸術・歴史の振興においては、中央公民館及び図書館を拠点とし、人生100年時代を見据えての生涯学習の充実に努めるとともに、自己の目標達成や夢の実現、快適で充実した生活のため、大阪芸術大学や近つ飛鳥博物館との

共催講座や公民館講座による各種教室の内容充実を図ってまいります。また、令和5年11月から実施いたしました図書館におけるマイナンバーカードやスマートフォンによる新貸出サービスや子ども読書週間にあわせて実施いたします「こども図書館まつり」、人形劇や絵本の読み聞かせなど様々な催しを行い、読書の普及・啓発及び新規利用者の来館を促すことといたします。さらに、次世代を担う中学生を対象に、国際感覚を養うとともに、国際理解を深めさせ、将来、グローバル化の進展に対応した地域の振興に寄与する人材を育成するため、引き続き、中学生異文化体験研修や小学校高学年も含めたイングリッシュキャンプを実施してまいりたいと考えております。

スポーツの振興においては、総合体育館を拠点とし、各種スポーツ教室やかなんぴあプールの一般開放など、町スポーツ推進委員等と連携し、また町体育協会の協力も得ながら、様々な事業を実施するとともに、本年度中に策定いたしますスポーツ振興計画に基づき、地域住民のスポーツ活動を促し、地域スポーツの振興を図ることといたします。また、町立総合運動場などの体育施設については、河南町体育施設長寿命化計画に基づき、補修・補強等を進めることといたします。以上、教育行政に関する主な施策について述べさせていただきました。また、これらの施策を系統的かつ横断的に「つなげていく」ことで、町として目指すゴール「一人ひとりが輝き、笑顔あふれる人づくり」を達成していきたいと考えております。そして、「つなげていく」との思いを込めて、これらの全ての施策を「プラン・河南 BEAM（ビーム）」と名付けて実施していきます。「BEAM（ビーム）」には、「光線」「光を発する、輝く」「微笑みかける」との意味があるように「町から、広く未来へ、光線のように一直線にはばたき、そして、そこには、常に一人ひとりの輝きと笑顔があふれている」との願いも込めております。また、アルファベット一文字ずつにも、Bは「ベスト（Best）・精一杯」、Eは「エンパワメント（Empowerment）・子どもたちの内なる力を発揮させる」、Aは「アクション（Action）・まずはやってみる」、Mは「メイクアップ（Make up）・よりよく」との意味を込めております。これらを町内すべての学校園現場の教職員、教育委員会の職員で共有し、目指すゴールに向かって、未来で活躍する子どもたちの姿を思い描きながら、日々、連携・協力していきたいと考えております。

教育委員会は、教育長と教育委員の皆様との合議制の執行機関であり、今後も委員の皆様との活発な委員会運営に努めて参りたいと思っております。

また、かなん桜小学校5年生を対象に中村地域福祉委員会の方々の協力のもと実施いただいております芋煮会、町内小学校においておはなしの会どんぐりころころの皆様により学期ごとに実施いただいておりますお話の会など、子どもたちの成長をあたたく見守り、支えて下っている地域等の皆様へ感謝と敬意を表するとともに、地域の方々による活動について、更なる連携を行うため、コミュニティスクールの設置を目指して準備を進めてまいります。その組織を通して、学校と地域の役割分担をすることで、教職員の働き方改革にもつなげていきたいと考えております。

昨今の教育を取り巻く環境は、目まぐるしく変化しており、時代に即した教育行政を進めていくには、国・府はもちろんのこと、学校園現場との連携を密にし、教職員がよりよい環境で心も体もよりよい（ウェルビーイング）状態で働けるよう、校務支援ソフト等の新規更新など各家庭との各種連絡・周知方法も多様化させ、教育面でDXを積極的に取り入れながら各職場環境を整えてまいります。

そのためには、委員の皆様方のご意見を賜りながら、課題を一つひとつ着実に解決致したいと思っておりますので、委員の皆様方におかれましては、今後変わらぬご指導並びにご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。私の考える、本年度の教育行政推進にあたっての方針とさせていただきます。

令和5年12月25日

河南町教育委員会
教育長 中川 修

それでは、ただ今より、令和5年12月の教育委員会定例会を開催いたします。まず初めに、本日の定例会の傍聴の申し出についてですが、本日はございません。

次に、本日の出席者は5名です。定足数を満たしていますことをご報告いたします。

次に、会議録署名委員は、河南町教育委員会会議規則第17条の規定により、杉田委員に決定してよろしいでしょうか。

委員全員

——— 異議なしの声あり ———

教育長

ご異議ないようですので、会議録署名委員は、杉田委員に決定いたしました。杉田委員、どうぞよろしくお願いたします。

事務局	<p>それでは議事を進めさせていただきますが、本日は議案がありませんので、「2. 諸報告・その他」に進めさせていただきます。</p> <p>「(1) 外国人指導助手 (ALT) について」は、先ほど冒頭にて紹介させていただきましたので、次の「(2) 令和5年12月定例会議 一般質問要旨 (教育委員会関係) について」事務局の説明を求めます。</p> <p>「(2) 令和5年12月定例会議 一般質問要旨 (教育委員会関係) について」資料に基づき説明</p>
教育長	<p>この件について、ご質問等ございませんか。</p>
委員	<p>大門議員の質問ですが、「1. 生きる力となる教育とは」について、教育長の回答として、「本町教育行政の先頭に立つものとしては、子どもたちに「生きる力」を育成することが大切であると考えている。」と述べられています。</p> <p>NHKのニュースで、全国の教員の約6500名が精神疾患で休職、もしくは、休んでいるという実態が流れていました。</p> <p>僕は、この6,500人というのは、やはり多いという印象です。</p> <p>生きる力を子どもたちに学ばせるためには、指導者である先生方が元気でないといけないと思います。いくら使命感で言葉を投げかけても、それは力強いものには決してならないと思います。</p> <p>この問題がまず1点。</p> <p>そして、教育長が考えられる生きる力を子どもたちに教育現場で学び、体験させるためには、具体的にはどういうことをすればいいかということをお聞きしたいと思います。</p>
教育長	<p>教育長所信表明の中でもお話しさせていただきましたが、今、藤原委員がおっしゃったように、世間でも社会問題にもなっている「教職員の働き方改革」。</p> <p>これについては、この3年間、例えば、校務支援ソフトであるとか、これからの時代に即した形で、働き方改革を改善するような取り組みというのは、着手はしているのだけれども、まだまだ十分な成果が出ていないというところ です。</p> <p>先ほどウェルビーイングの話をさせていただきました。</p> <p>要は、先生たちに余裕がないと、なかなか子どもたちに十分な教育はできない。そのように思っていますので、引き続き、例えば、校務支援ソフト、あるいは、コミュニティスクールなどを活用していきたいと考えています。</p> <p>要は、地域の方、学校以外の方とも、今後、どんどん連携する中で、役割分担をもっとわかりやすく行い、先生たちの役割に集中できるような環境を整えていきたいと考えています。</p> <p>そのことが、この大門議員のおっしゃる生きる力の育成に関わると思います。具体的に生きる力を育成していくにはどうするのか。</p>

議員からは、学力のことから出発しているのですけれども、皆さんもご存知のように、学力を上げるために特化し過ぎたような取り組みがあった。議員も、そのことについては、いかななものかなと思っている。

生きる力というのは、何も勉強だけとか、学力だけ上げたらいいというものでは決していない。バランスよくということです。

当然、集団で勉強するわけですから、人の心がわかるとか、助け合いであるとか、多様性を認めることも大事。学力は3分の1。心の育成も3分の1。そして、健康・体力も3分の1。

それらを具体的にどうするのか。もう授業しかありません。

毎日、学校の実態、子どもの発達段階に合わせた形で授業が行われています。やっぱりそれなのです。ベースはそこなのです。

一つ一つの教科に目標があって、先生たちは授業改善しながら授業を工夫し、子どもたちが授業の中で学んだことというのは、それをもとにして、例えば、イベントであるとか、学校行事であるとか、あるいは、縦割り班活動であるとか、いろんなことに取り組んでいます。

それ以外では、例えば、特別活動の中では、委員会活動であったり、クラブ活動であったり、それから、道徳も当然あります。

そういった部分で学んだことを基礎にしながら、ちがう分野でそれをもとに、どうあと一歩踏み出して頑張っていけるのか。そういう授業づくりをしていく。

だから、具体的には、授業です。

その中で、外に出たときに、それができているのか。あるいは、大きなイベントや学校行事の中でそれができているのか。

先生に必要なことは、日頃の学習や授業一つ一つと、いろんなところで発揮した子どもたちの姿を具体的に結びつけてきちんと評価することです。

自分にはこういうところがあるのだな。ここは気をつけていかなければならないということ、先生の言葉から、あるいは、子どもたち同士の中でもできていけたら、一番いい。

そういうことで、学校に行って、自分が認められているとか、行ったかいがあったとか、また、明日も学校行きたい、そんな学校づくりを目指していく。

具体的には何か。授業がベースになります。

委員

私のイメージは、授業というのは、やはり教科学習というイメージになってしまいます。

私が思うのは、教育長の所信の中に、森林組合との提携とありましたよね。森林組合と提携しながら、子どもたちをアウトフィールドに連れ出そうと、いろんな体験をさせようという構想をお持ちですので、僕は、いわゆる教科学習のみならず、河南町独自の取り組みとして、体験授業というのを一つ構想として育てていくことを皆さんと相談したいと思います。

私は、平成8年から現在に至るまで、河南町青少年指導員連絡協議会の代表を務めさせていただいています。

	<p>私たちの考えは、「子どもたちが社会人として立派に活躍できる基盤づくりをしてあげよう。」というものです。</p> <p>そのためには、何をしたらいいか。私達は10年前に気づいたのですが、体験型のイベントにチャレンジしてもらって、どんどん失敗してもらおうということで、失敗して泣く子もいますが、失敗して、エラーして、エラーして、エラーして、最後にうまくいった時のあの感激の顔っていうのは、私たちはやっぱり忘れられないのです。</p> <p>自分たちの夢を叶えるためには、決して諦めない強い心を持つとうというのが、河南町青少年指導員の基本的なセオリーです。</p> <p>それを学校現場で体験型学習というものを通じながら、せっかく森林組合が入って来てくれているわけですから、そういうイベントの中で、そういうことをどんどん体験してもらって、失敗も重ねながら、「よし、負けない。」という気持ちを育てていただくようなことも、河南町でできないかなというのが僕の意見です。</p>
教育長	<p>おっしゃる通りだと思います。</p> <p>一番ここで皆さんと共有したいのは、今、おっしゃっている体験学習もイベントもすべて授業です。そして、日頃やっている国語や算数も授業です。</p> <p>だから、そこはつなげていかないといけないのです。別物では決してないということ。それを先生たちが意識しているかどうかということです。</p> <p>諦めないということと言うと、例えば、算数の問題一つにしても、わからないから放り出すのではなくて、最後まで頑張る。国語の本読みにしても、一生懸命練習して上手になる。</p> <p>教科学習において諦めずに頑張るという姿勢が、体験学習の時につながると思います。</p> <p>子ども自身に気づかせないとわからないところもあるので、先生自身もそのことに気づいているのか、また、意識しているのか。</p> <p>つなげていくということが、改めて大事なかなと思っているので、先ほど申し上げた中でも、つなげるということの一つのキーワードとしていきたいと思っています。</p>
委員	<p>はい、わかりました。</p>
教育長	<p>他に何かございませんか。</p>
委員	<p>同じく大門議員の分ですけれども、教員数について教育総合会議の場で少人数学級（35人学級）のことは議論されたのかということところです。</p> <p>今、6年生が35人ですよね。あと、1年生も2年生も35人ですよね。</p> <p>3年生から40人になるのですか。</p>

教育長	<p>今は、国の方が、順次対応しており、4年生までが35人学級です。来年は5年生も35人学級となり、令和7年度で6年生も35人学級になります。それで小学校全学年が35人学級になります。</p> <p>ただ、中学校は現状のままです。</p>
委員	<p>両方の小学校の6年生が落ち着いているという声を聞きます。やはりこの施策が功を奏しているのだろうなというのは感じます。</p> <p>そして、学級担任というのは、1人で持ってもらうのは、やりがいがあり、醍醐味のある仕事だと思うのですが、例えば、できるだけ2クラスで3人の担任とか、私は1クラスでも2人担任でもいいのではないかと個人の感覚としては思っています。</p> <p>だから、本当に教育長の所信表明を、すごく素敵だと思いながら聞いていたのですが、できるだけ子ども10人に対して1人付くぐらいの、一人一人と向き合える時間が取れるような環境を作っていくというのが、お金もかかるのかもしれないのですが、一番良いと正直思っています。</p> <p>その部分について、河南町は子どもがそんなに多くないですし、1人の子どもを1人が見るのではなくて、3人ぐらいで一緒に見ていくような感覚で、小中と子どもを育てていけたら、とても幸せだなと思います。</p> <p>親としても、担任が1人ではなくて、2、3人いつでもつながっていけるような先生がいてくれる学校という方が、保育園の時とか割とそういうことが多かったと思うのですね。1クラスに2、3人の先生がいらっしゃるの、私としては、そういう方向に持って行っていただけたら、すごくいいのではないかなと思います。</p> <p>教員でない大人も、たくさん子どもと触れ合う時間が、藤原委員の活動も然りですし、そういうことがどんどん進むと嬉しいなと思って話を聞いていました。</p> <p>以上です。</p>
教育長	<p>今のお話も含めて、何かその辺りで皆さんと共有できるようなことが何かあったらお願いします。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>おっしゃるように、現場が今一番求めているものの一つがマンパワーだと思います。その辺は、今、事務局の方でも、いろいろ交渉しながら、実現するかどうかは別問題として、また、国の方も、今、マンパワーということで、新たな加配というのも話としては出てきています。</p> <p>本町としては取りに行けるものは取りに行くという姿勢で臨んでいこうと思っていますし、最終的にどんな形になるかわからないけれど、マンパワーの充実ということ。これがまず一つ。</p>

	<p>それともう一つは体制です。</p> <p>チーム学校をどう具現化していくかは、それこそ皆さんのご意見もいただきながら、あるいは、当然、学校現場とも連携しながら、例えば、300 人の子どもがいて、先生たちが 20 人いたとしたら、20 人の先生で 300 人みんなを見るというのが理想です。</p> <p>できるだけそういった理想に近づけていきたいという思いはありますし、おそらく現場の先生たちも、自分のクラスの子どもだけ見ていたらいいと思っている人は誰もいないと思います。</p> <p>ただ、それをどう連携していったいいのかわからないっていう人も中にはいるかもしれないので、その辺は学校長のリーダーシップのもと、どういう組織体制でやっていくかということについては、ここで我々も、いろいろ議論しながら、現場とも連携していき、保護者からしても、子どもからしても相談しやすい学校でありたいと思います。</p>
事務局	<p>町の方でも教育相談とかいろんな窓口がありますが、学校の方でも各学期にアンケート調査をして、子どもからいろんな悩みを聞き出す仕組みというのがありますが、直接先生には相談しにくいことなどが、案件によってはあるので、外部で相談できる窓口を周知しようということで、例えば、大阪府がやっているような相談、LINE で相談できるような仕組みもありますので、学校内に掲示するなど、何かあったら、抱え込まないように、いつでも誰にでも相談できるということを周知しています。</p> <p>それぞれの学校においても、担任の先生でなくても、相談しやすい先生に相談できるということを伝えていただいたりして、できるだけ子どもの悩みをキャッチできるような周知の仕方というのを心がけているという状況です。</p>
教育長	<p>あと、小中学校ともに学校だよりなどで相談窓口の周知を定期的に行い、その周知回数について今年はいぶ増えていると思います。</p> <p>今まで年度当初の 4 月だけでしたが、それを何度も丁寧に周知しています。</p> <p>今後も、何度も何度も繰り返しやりながら、進めていきたいと考えています。</p> <p>他にありませんか。よろしいですか。</p> <p>ないようですので、次に「(3) 令和 5 年度修了・卒業式及び令和 6 年度入園・入学式について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>「(3) 令和 5 年度修了・卒業式及び令和 6 年度入園・入学式について」資料に基づき説明。</p>
教育長	<p>この件について、ご質問等ございませんか。</p>

	<p>ないようですので、次に「(4) 二十歳の集いについて」事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>「(4) 二十歳の集いについて」 資料に基づき説明。</p>
教育長	<p>例年、職務代理者として西川委員にお願いしているのかな。</p>
事務局	<p>はい。</p>
教育長	<p>ということですが、みなさん、よろしいでしょうか。</p>
委員全員	<p>——— 異議なしの声あり ———</p>
事務局	<p>西川委員、よろしく申し上げます。</p> <p>次に、来賓でございますが、裏面の名簿にある方々を予定しています。 なお、今年度から学校長の出席につきましては、申し出により見送らせていただきます。 今、お手元に出席依頼文書を置かせていただいておりますので、またご覧いただきたいと思っております。 当日は、9時半ぷくぷくドーム集合でお願いします。 以上です。</p>
教育長	<p>この件について、ご質問等ございませんか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>ないようですので、次に「(5) 令和5年度大阪府市町村教育委員会研修会について」事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>「(5) 令和5年度大阪府市町村教育委員会研修会について」 資料に基づき説明</p>
教育長	<p>この件について、ご質問等ございませんか。 ないようですので、事務局から他にありませんか。 ないようですので、委員の方々からご質問やご意見等、何かございませんか。</p> <p>冒頭で所信表明をさせていただいた内容について、いろいろまだまだ悩むところもあり、試行錯誤していかなければいけないところもあると思っています。</p>

今までやってきたことをベースにやっていきたいと思っておりますが、町で働く教育関係のすべての人、現場の先生たち、事務局員、教育委員さんが、何かの名のもとに気持ちを一つに揃えることができたらいいなということで、「プラン・河南 BEAM（ビーム）」と施策の総称として命名しました。

事務局では、4 課で役割分担してやっている。学校は学校でやっている。でも、それはバラバラじゃなくて、常に目指す方向性は一緒に、一人一人が輝き、笑顔溢れる人づくりというゴールを目指してやっていく。それにぶれはないということです。

本町が目指すところはすべてここであり、具体的には、皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますし、できればこの話については教職員にもしたいと思っております。

そして、本町では「プラン・河南 BEAM（ビーム）」のもと目指す方向をひとつにして取り組んでいくということを発信していきたいと考えています。

ただ、名前だけが勝手に独り歩きするような名倒れをすることなく、それを充実させていくためには、本当に皆さんのご意見もいただきながら、この場を中心に発信していけたらと思っておりますので、よろしくお願ひします。

委員

私はすごくいいと思いました。「プラン・河南 BEAM（ビーム）」。

そこに向かってどんなことを取り組むのか。各部署が一緒になり、いろんなものが描けると思います。

一定の枠組みがないと取り組むことが難しいので、ぜひ何かそういうゴールをいつにするのかということを決めて、どんどん取り組んでもらえたらいいなと思いました。

教育長

ありがとうございます。

皆さんのお力なしでは達成できないと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

以上をもちまして、本日の議事日程は全て議了いたしました。

これをもちまして、12月の教育委員会定例会を閉会いたします。

次回開催日は令和6年1月26日（月）16:00からと決めていただいております。

また、2月定例会は、令和6年2月19日（月）10:00からの開催といたしますのでよろしくお願ひします。本日はご苦勞さまでした。ありがとうございます。

令和 年 月 日

教育長名

署名委員名